

紙芝居&手洗いチェッカーで学ぶ!



食の安全安心のご案内



幼少期に手洗いの基本、食肉の十分な加熱を理解してもらい、食中毒の防止に取り組んでいます。

高温多湿な夏は食中毒が多発する時期です。

夏休みにおける放課後児童クラブのイベントの一つとして手洗い教室を実施してみませんか？

明石健康福祉事務所と明石食品衛生協会の職員が出向き、紙芝居と手洗いチェッカー体験の食品衛生の講習を実施します。

正しく手洗いできることは集団生活を送るうえでも重要ですので、冬期のインフルエンザやノロウイルスなどの感染症対策にも有効ですので、是非ご活用ください！！

<実施例>

1 紙芝居『れん君とあわりいの手洗い大冒険』と『れん君とふしぎなめがね』(計20分間)

兵庫県では、食中毒予防の3原則(食中毒菌を、つけない、増やさない、やっつける)を啓発するため、5歳の男の子を主人公にした紙芝居(2種)を作成しました。各10分間。

2部構成で、第1部ではしっかりと手洗いをする(つけない)の大切さを、第2部では食品の適切な保存方法(ふやさない)と加熱(やっつける)の重要性をテーマとしています。

『れん君とあわりいの手洗い大冒険』

(ねらい：食中毒菌をつけない)

れん君とあわりいの手洗い大冒険



れん君は元気な5歳の男の子。おやつ前の手洗いが面倒で、石けんを使わずに済まそうとします。その時、泡の妖精『あわりい』が現れ、れん君に魔法をかけます。すると、れん君の体は小さくなり、手のひらの世界に広がるバイキンを目の当たりにします。バイキンたちに追いかけるれん君とあわりい。その結末ははたして…。

